

K SS 遮断器取替工事現場視察

所属 電力部 氏名 K. M

第1回視察 平成30年 7月 2日(月)

第2回視察 平成30年 8月 8日(水)

1. 現場の第1印象

変電所はこれまで車の運転中に見かけたことがあったが、何をやる設備なのか、どれ程危険な場所かという認識は全くなかった。

今回、変電所に初めて入所したが、まず敷地の広さに驚き、自分の頭上に6万ボルトの電圧が流れており、目に見えていないだけでとても危険な場所で作業をしていることに恐怖を感じた。

2. 作業状況を見て思ったこと

7/2 1回目の視察

- 高温多湿の環境の中、長袖、長ズボン、ヘルメットという格好で、危険な場所での作業に命掛け(熱中症、感電等)の仕事だなと感じた。
- 碍子を傷つけないよう養生する作業1つにしても、丁寧かつその後の作業を想定した進め方だった。
- 必ず2人以上で1つの作業をしていて、安全の基礎が守られていて声を掛け合いながら、丁寧な作業だった。

8/8 2回目の視察

- 一つの一つの作業を開始する前に必ず“声掛け”(呼称復唱)が行われていた。
(例: 高所からはしごを使用して降りる際、「降ります」の一声があり、監視者より「はい、降ります。」の復唱があった。)
- 柱に登った状態での作業があり、すぐ頭上には電気が流れているため、とても危険だった。
- ボルト締めルールとして、締めた跡にマーキングをし、締め付け完了のサイン&締め忘れ防止&緩みが発生した場合に分かりやすくするといった作業の重要性を教えてもらった。

3. 今回、現場視察して

変電所の危険は、目に見えないためとても怖かった。

外での作業のため、夏場の熱中症対策は十分な対策が必要であると実感した。事務所では想像ができない環境下での作業だ。

自分たちの生活に必要な電気が、こんなに危険を伴った環境で作業をされていることを初めて知った。災害が発生しないことが不思議なくらいだが、

“安全は全てにおいて優先する”、“安全に上下関係はない”

“一人一人”また、“お互い”が安全第一の意識の上で作業をされているからこそだと思った。

今回の視察は、大変勉強になった。

以上